

胡錦濤政権期の「外交ドクトリン」

2012年2月16日(木) 14時~17時

南山大学名古屋キャンパス

J棟 1階特別合同研究室(Pルーム)

報告1 中国における国益論争と核心的利益

前田宏子 (PHP 総合研究所主任研究員)

報告2 胡錦濤政権前期における「韜光養晦」をめぐる論争とその背景
—外交政策形成過程の変容の視点から—

李彦銘 (慶應義塾大学法学研究科後期博士課程)

報告3 中国の国際的身分 —「責任ある大国」から検証する

徐顕芬 (早稲田大学現代中国研究所客員専任講師、
人間文化研究機構地域研究推進センター研究員)

報告4 中国におけるグローバル・ガバナンス論

兪敏浩 (名古屋商科大学コミュニケーション学部専任講師)

司会 星野昌裕 (南山大学総合政策学部准教授)

討論 須藤季夫 (南山大学総合政策学部教授)

鈴木隆 (愛知県立大学外国語学部中国学科専任講師)

中国の台頭が語られるようになって久しい。さらに2000年代から世界的なパワー・シフトの時代を迎え、新大国、中国の動向は世界の注目の的となっている。しかし中国外交の内実については、政策の多元化、利害関係者の多様化が指摘されており、その実態は益々つかみ難くなっている。本シンポジウムでは、胡錦濤政権の外交方針に密接に関連する4つのキーワードを事例に、中国政府が提起する「外交論」の形成過程と実質を明らかにし、中国外交の指向性に具体的に迫る。

携帯電話、スマートフォンからこの講演会の情報が読み取れます。↓

